



今回の紙面

- ◆年頭のごあいさつ ～「島根の地域医療」51号を記念して～
- ◆地域医療最前線 NO.56 《安藤幸典 院長》
- ◆看護師さんのページ NO.36 《板持さとみ看護部長》 ◆研修医のページ NO.39 《岩佐憲一先生》
- ◆平成26年度第3回地域医療支援会議 ◆Non Blue Rose 限定復活版



年頭のごあいさつ

「島根の地域医療」

51号を記念して

島根県健康福祉部

医療統括監 木村 清志

新年 あけまして おめでとうございませう。旧年中は本県の医療行政の推進のため格別のご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。本年も変わりがありません。どうぞよろしくお願いたします。



さて、この機関紙「島根の地域医療」は今回で51号です。51を敢えて節目の数字とさせていただき、「島根の地域医療」を創刊から草創期のへき地（地域）医療状況などと照らし合わせ、私の係わりも含めて振り返ってみたいと思います。また、本号には初代の編集長にお願しいし、「Non Blue Rose」のコーナーを今回限定で復活しました。

「島根の地域医療」は平成13年10月に、まず準備号という形で出しています。平成14年4月に正式な形で第1号

を発刊し、以後は年に数回発行、今回が51号となっております。今のように定期的に年に4回発行するようになったのは平成17年からです。

平成13年度は第9次へき地保健医療計画が始まる年度であり、前年に出された国のへき地保健医療対策検討会報告書によれば、「二次医療圏単位でのへき地医療体制は限界と考えられ、より広域的な都道府県単位のへき地医療対策が必要」と総括され、第9次の計画では、担当責任者（医師）を配置した「へき地医療支援機構」を各都道府県の取組として構築することと謳われています。本県では、「へき地医療支援機構」は平成14年度中に県立中央病院内に設置され、平成15年度に私が専任担当官に就任しました。本県の、「へき地医療支援機構」は翌16年度には当健康福祉部医療対策課（後に医療政策課に改称）内に移動し、それに伴い私も県庁勤務となりました。

また、「島根の地域医療」には本県の



地域医療施策とともに医療機関の求人情報、診療所や病院の近況などを掲載するとしております。

そして創刊号では、「緊急へき地等勤務医療従事者確保対策」と銘打った事業が始まり、「赤ひげバンク」や、医学生に対する奨学金制度などが創設されたことが載っております。

私は平成15年2月の第3号に「風に吹かれて〜出雲より〜」で初登場いたしました。ちなみに第4号には初めての医師面談で、鹿児島県の離島に行つた事を書いております。

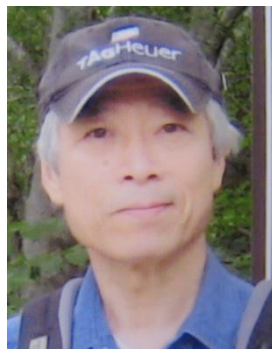
平成16年の第7号、8号を見ますと、本県に於ける医師不足はへき地だけではなく、また様々な診療科で起こってきているなど、医師不足がより深刻化してきていることがわかります。またこの年は初期臨床研修必修化の初年度で、第11号から新たに研修医のページが始まっております。また、研修医の定着を目指した事業も開始しており、医師を「呼ぶ」「育てる」「助ける」の三本柱で医師確保対策を進めようとしていることがわかります。平成18年度は、当健康福祉部医療対策課内に医師確保対策室が設置され、

益田市国民健康保険診療施設

美都診療所

所長 安藤 幸典

平成25年1月から今年の7月まで、



小児医療支援のため福島県南相馬市で勤務しました。

私が初代室長を拝命いたしました。この年に隠岐病院の産婦人科医師が半年間不在となり、島内で分娩できない状況になりました(第16号)。これは全国的なニュースにもなりましたし、このことが当医師確保対策室を設置する大きな要因の一つであったと記憶いたします。また第16号からは新たに看護師さんのページが始まり、これで本号にまで繋がる「島根の地域医療」の様式が整っております。

以上が簡単ではございますが、「島根の地域医療」が現在の型になるまでのいきさつです。この紙面を借りまして、これまでご執筆いただきました方々と様々な形でご支援、ご協力をいただいております方々に心からお礼申し上げます。

「島根の地域医療」が今後も皆様にお知りになりたい地域医療の情報をお早くお届けすることができまますよう医療政策課職員が一丸となって頑張る所存であることをお伝えしますとともに、医師・看護職員を含めた医療従事者の不足で困窮することがない日が来ることを祈念いたしまして、この稿を終えさせていただきます。



雲南市立病院

看護部長 板持 さとみ

務しました。

そこでは東日本大震災と原発事故による経済や放射線の問題だけでなく、「地域のつながり」が失われたことが市民に大きな影響を与えていました。

科学と産業の発達のお蔭で、我々は便利で快適な生活(電気や水道など)の中にどっぷりと浸かっていますが、それは空気のようにいつも身の回りにあるため失われて初めてその存在に気が付きます。同様に「地域のつながり」も失われて初めて、我々を支えてくれるもので我々が努力して保たねばならないものであることに気付かされました。

その後平成26年9月から益田市美都町の診療所で働き始め、4か月にな

ります。

午前は、こころや体の悩み(症状への不安、検査の数値への不安、身体の痛み、耐糖能や脂質代謝の低下、消化器・循環器・骨・軟骨組織の劣化)や介護の悩みを聞き、薬の相談にのっています。

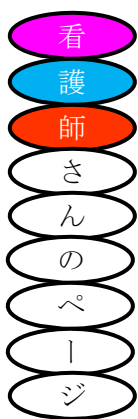
午後は、子どもたちと関わる時間を作っています。乳幼児健診・発達クリニック・保育所・学校の健診・就学児健診などでは院外に出かけ、発達・思春期・心身症などの予約診療や相談外来も設けています。終業後には、相談のあった子供たちの通う学校での事例検討会にも参加しています。

が合同で行う運動会など。

さまざまな問題を抱える地域医療の構想の中では、家庭医・かかりつけ医・総合診療医など種々の目的のもとで作られてきた多くの名称がありますが、当診療所は「地域のつながり」を生かしながらどんな役割を期待されているのでしょうか？

その役割を果たすために、優先するものを見分ける「知恵」と、変える必要のあることを変える「勇気」と、出来ることを続ける「力」を欲しいと思っています。

美都町の皆さま。これから一緒に、ここを日本で一番の田舎(地域)にしましょう！



雲南市立病院

看護部長 板持 さとみ



当院は、戦後間もない時期、農業主体の地域における病

と、農業組合の主導で設立されました。その後、平成16年の合併により雲南市が誕生し、平成23年に雲南市立病院として再スタートしました。

一般病床203床（感染病床4床・地域包括ケア病床43床含む）、回復期リハビリ病床30床、介護療養病床48床の281床、14診療科を標榜する地域の中核病院です。

「地域に親しまれ、信頼され、愛される病院」を基本理念に、多職種の連携・補完により地域の中核病院としての責務に取り組んでいます。

高齢化の進む地域において、地域包括ケアシステムの構築が求められるところではありますが、医療・介護の資源が豊かとは言えない地域において差し迫った現状に今できることから始めようと、地域包括ケア病棟を昨年9月に開設しました。

高齢化率35%、独居・老々介護等、在宅への復帰は厳しい現状もあります。が、地域包括ケア病棟の退院支援の充実、地域との連携強化が重要と考えています。

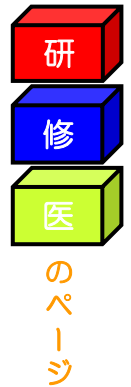
しかし、医療・介護職への就業は不足の極みです。当院のような中山間地域では若者（労働人口の都市部への流出）の減少をいかに止めるか、魅力ある地域とは何かを考え、この地で必要

とされている医療人を、自分たちの手で育てようという「地域医療人育成センター」を設置しました。小学生〜中高校生に医療への関心のきっかけ作り、医療を志した学生には臨床実習の場を設け、新人看護師へは近隣施設との合同研修等、安心してみんなががんばれる仕組みを作り、日々努力しています。



この努力を後押しして頂いているのが、地域のボランティアの皆さんの暖かい支援です。「出来ることを、出来るときに、出来る人から」をモットーに、無理のない支援で私たちを大きく支えて頂いています。患者・住民目線の気持ちに私たち職員も大きな刺激を受け、地域のために、健康講座・出前講座・病院祭・院内サロンなど地域の皆様とともに考える場に積極的に出かけています。

鳥の声を聞き、新緑や色づく木々を眺め「ここがいいがね・・・」を大事に、みんなががんばっています。是非一度足を運んでみてください。



松江市立病院

1年目研修医

岩佐 憲一



が経とうとしています。私はこの間に8つという、比較的多くの診療科を回りました。

さて、研修の成果が最もストレートに現れるのは夜間救急外来での当直時です。夜間救急外来当直は月4回、内科系・外科系でそれぞれ1人の上級医と、1人の研修医が担当します。救急外来に患者さんが到着し、看護師が問診を終えて内科か外科かが決まると、まずは私達研修医に「Call」がかかり、研修医は自力で診察からPlanningまでのところを行い、その後上級医と適切な対応を検討するといった流れが基本です。研修当初は残念ながら、すぐ上級医に相談せざるを得ない状況でした。しかしながら、研修を進めるにつれて、

NO. 39

今でも救急外来では適切な判断が難しい症状の方も来られますが、徐々にローテートして得られた経験や知識を患者さんに活かせるようになってきました。診療科を短期間で回ったため、十分に経験出来なかったこともありましたが、短いながらも多くの診療科を回ることができたため、まだまだ未熟ではありますが、少しずつ臨床の現場に対する自信ができてきたように思います。

ここで話は変わりますが、私は数ある病気のなかでも神経難病に興味があります。多くは治療法がなく、研修病院ではほぼ扱われることのない病気です。ここ松江市立病院も例外ではなかったのですが、研修前は臨床に対するモチベーション自体に不安を感じていました。しかし研修が始まるにつれ、症状が改善していった方や、最大限の対処をしてもらえなかった方などさまざまなお患者さんと喜びや苦悩を共有でき、その中で臨床の楽しさや奥深さを強く実感することが出来ました。



Non Blue Rose

コンプライアンス全盛の世になった(服薬のそれではない)。単に「法令遵守」の訳ではならず、社会常識や企業倫理、さらに人間としてあるべき姿まで含む広い意味を日本ではもたされた▼偽装表示か誤表記か、善意の錯誤か悪質行為か、はたまた情報の隠蔽か。事件が明るみに出ればまたたく間に拡散し、社会的感情の逆鱗にふれて蜂の巣をつつく騒ぎ。ネット上では暴力的糾弾をうける。トップがカメラの放列を前に謝罪する姿はマスコミにとっては絵になる▼医療の現場で紛糾がおきると、過剰なコンプライアンスに迫られる。会議や報告書がふえ心理的苦痛をうけ多忙をきわめる。医師も生身の体ゆえに、結果として診療科を減らした病院がいくつあるだろう。はね返って医師不足を甘受しなければならぬのは私たち自身だ▼ルールやマナーの遵守は大切だが、過ぎたるは及ばざるがごとし。コンプライアンスが目的化してしまうと本末転倒する。適度なころあいは何処にあるのだろう【F】

▲今号のみ限定復活「Non Blue Rose」。約9年(36号分)ぶりの復活ということで、初代編集長が執筆しました。

青い薔薇～Blue Roseは不可能という意味。バイオ技術で園芸の世界も変わりつつありますが、NonBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。



またここ松江市立病院では、指導医を始め先輩医師の方々が熱心に臨床に取り組み姿が自分にとって非常に良い目標となつていきました。そして今でも研修中の一番の心の支えとなつているのが9人の同期の存在です。経験や失敗を共有しながらお互い励まし合つて研修することができたおかげで、研修当初の何も経験がなかつた思いを、した時期を乗り越えられた気がします。まだまだ未熟ですが、目標を忘れずを持ちながら、これからも患者さんや周りの方々から多くのことを学べるよう努力していきたいと思えます。

平成26年度第3回 島根県地域医療支援会議
平成26年12月24日(水)、平成26年度第3回島根県地域医療支援会議をオンラインポーむらくも(松江市)において開催しました。今回は、県内7圏域の代表から、義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣要望をお聞きしました。派遣要望数は過去最多を更新する36名となりました(H27年度の派遣者は11名)。要望の中では、現在派遣中の医師が離島や中山間地域における医療の確保と向上に大きく貢献している様子が紹介されたり、仮に派遣が難しい場合でも後期研修先として選んでほしいという意見もありました。本県の地域医療において自治医科大学卒業医師

が示す存在の大きさを改めて感じました。また、県内の公立・公的病院や地域医療拠点病院の院長からは近況報告をいただき、その中で新しい専門医制度に向け大学の果たす役割への大きな期待が寄せられ、島根大学医学部附属病院の井川病院長から「しっかりと対応していきたい」との決意表明がありました。その他、圏域内の他の病院と連携した取組みの紹介などがありました。閉会あいさつで県の原健康福祉部長が、「各地域の状況等をお聞きする貴重な機会となった。いただいたご意見やご要望については、今後の施策展開の参考にさせていただきます」と述べました。

【医療政策課 神村】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryoun@pref.shimane.lg.jp
ホームページ: [島根の医師確保対策](#)

